

- 適度のユーモアは指導を円滑にし、訓練生の気分を和らげ、習得を楽にする。
- 3 能力に応じた指導をする。
 - (イ) 個人差を知る。
訓練生の能力、個性等を知って、それに適した指導をする。
 - (ロ) すでに持っている知識と関連させる。
訓練生の持っている知識を基にして新しい知識を教え、理解を早める。
 - (ハ) むずかしい言葉を用いない。
むずかしい表現や自分だけしかわからない言葉は用いない。
 - (ニ) 一つのことを完全に習得してから次の新しいことを習得させる。
特に基礎となる作業、知識は完全に習得しない限り次のことに進まない。
 - 4 技能習得に影響する条件を考える。
 - (イ) 身体の状態はどうかをみる。
身体的欠陥、病気、疲労、睡眠不足の有無を調べる。
 - (ロ) 精神の状態はどうかをみる。
訓練にのぞむ気構え、心構えを調べる。
 - (ハ) 環境はどうかをみる。
季節、天候、設備、配置の良否を調べる。

9 生活指導

9ノ1 生活指導の意義

訓練所においては、一方に訓練生の知識、技能を中心とする訓練があり、同時に訓練の過程を通じて訓練生の人間としての向上をはかるための生活指導が行なわれる。

技能の訓練と生活指導とは密接な関連をもっており、職業訓練においては、この2つが一体として行なわれるとき職業訓練の成果が期待される。すなわち、技能の習得は、訓練生の生活態度が向上するときその効果が一層高まり、技能の進歩は、訓練生の生活態度によい影響をもたらすものである。

生活指導は、広い意味では個々の人間の持っている能力や素質を見出して、その最大限の発揮を助けることであり、個人的にも幸福な、同時に社会的に有能な人間にまで育成することである。

その目標は、個人をして自己指導ができるようになるまで援助することである。

訓練においては、訓練生に対して立派な技能労働者となるよう育成するのであるから、訓練生の生活上の種々の問題を解決して、生活環境に適応するよう援助が必要である。

このことは、結局、生産現場に即応した知識、技能の習得を基本とすると同時に、職場や社会にあって、正しい生活を営み、良い習慣を身につけた技能労働者としての人格の形成に資するものである。

この意味から、指導員の生活態度は、訓練生に身近な影響力を及ぼすものである。

生活指導の特質としては、次の諸点を挙げることができる。

- (イ) 生活指導は、人間の価値が最も重要であるとの観点に立って、指導をあたえるというよりは、むしろ自己指導の働きをたすけるものであること。
- (ロ) 生活指導は、訓練生個人を現在の状況に適應させようとするばかりでなく、職場規律の確保、志気の昂揚に役立つものであること。
- (ハ) 生活指導は、時間的には訓練時間内にのみ行なわれるものでなく訓練生の生活時間の総てに亘り、また、場所的には訓練所に限定することなく家庭、地域社会等をも含めて考慮し、訓練生の生活全体の向上をはかるものであること。
- (ニ) 生活指導は、すべての訓練生について行なわれるもので、問題をもつ者や少数の選ばれたもののみを対象として行なわれるものではないこと。
- (ホ) 生活指導は、適切な計画に基づき、連続的な過程において、統一的な活動として行なわれるものであること。

9ノ2 生活指導の分野

生活指導の分野としては、実践的な面からみると、つぎのような指導の分野を挙げることができる。

1. 社会的指導

訓練生の社会生活への適應をはかるための指導である。社会生活とは、国家社会の一員としての生活から、職場人としての生活までを指すのである。これらの社会生活に適應し、さらに社会の発展に貢献するのはどうしたらよいかを指導するのが、社会的指導の目ざすところである。

訓練所においては、できるだけ豊かな、また、規律ある社会生活の場として社会的な活動に必要な態度を育てる必要がある。すなわち、訓練生を集团社会の一員として、他人の人格を尊重し、民主的な方法で問題を解決し、社会生活における自由と規律を真に身につけるよう指導すべきである。

また、職場人として必要な勤労意欲、責任感、協調性等の育成につとめなければならない。

さらに、現在の具体的な社会問題、時事問題等をとり上げて、訓練生の社会生活に対する正しい理解や合理的な判断を高めることも必要である。

これらを通じ、訓練生各自の生活体験に訴え、その中から価値ある問題を取り上げ、その解決を通じて訓練生の正しい生活を發展させなければならない。

2. 余暇指導

余暇生活をいかに有効に行なうかについての指導である。すなわち、余暇の時間は労働による疲労回復、健康の増進、教養の向上、その他人間らしい生活を維持すること等のために役立つよう計画的効果的な使用について配慮しなければならない。従って、いかなる余暇活動を選択するかについての指導とみられる。

訓練生に対しては訓練所内外の余暇生活について、特に寄宿舍生活等の場合にレクリエーションの施設や機会を提供して、疲労の回復、健康の増進に役立つ運動とか、教養の向上、情操の形成に役立つ読書、音楽等を訓練生が適切に選択できるよう指導することである。

同時に、これらの余暇活動を通じて訓練生に同僚である訓練生の考え方を理解させ、これと協力する連帯意識を体得させることもできる。

余暇指導は、訓練生の興味、要求、能力等の理解にもとづくものである。

3. 健康指導

訓練生の健康上の問題に関する指導である。すなわち、訓練生の訓練期間中の心身の健全な発達をはかり、また訓練による疲労等心身に対する影響を解消させるものでなければならない。

そのためには、職業訓練体操の実施、余暇活動としての集団スポーツの実施等が必要である。また、衛生管理活動の一環として行なわれる健康診断等を通じて健康の維持、増進についての問題を指導すべきである。

健康指導においては、単に身体面の健康のみでなく、精神面の健康にも留意する必要がある。訓練所の集団活動に参加させることによって、劣等感の解除等精神的不適応を予防し、除去することができる。

これらには、訓練生の心身の健全な発達に必要な有意義な活動に参加させることについての指導勧奨が含まれる。

4. 職業指導

職業指導は、訓練生が職業生活によく適応し、進歩向上してゆくよう導くための指導活動の一分野である。

職業指導は、専門家の協力を得て行なうことがよい。訓練生に対する職業指導には、訓練生の適性に合致した訓練職種を選定し、訓練過程における適応との隘路を解決し、訓練修了後の適当な職場の選択を助け、及び就職後の定着を指導することまでが含まれる。

9ノ3 生活指導の方法

生活指導の方法は、集団指導と個人指導とに分けられる。しかし、両者は別々に孤立して行なわれるのではなく、多くの場合、個人指導は集団指導の中で、又はこれに即して行なわれるのが実情である。また、生活指導は、結局各訓練生の問題を解決し、よりよき社会人としての発達を助けるためのものであるから、あくまでも個人に即して行なわれるべきである。

9ノ3ノ1 集団指導

集団指導とは文字通り訓練生の集団に対する指導であるが、必ずしも集団の中のすべての訓練生に同一の指導をあたえることだけでなく、集団の中の個人に対して行なう指導をも意味している。

職業訓練は、集団的に行なわれるものであるから、職業訓練の場が即集団指導の場である。

集団指導の場は個人が集団の一員として活動するところであるから、その中で活動によって新しい自覚が生まれ、また、自分の行動が集団により評価されることによって、訓練生が進歩するのである。

集団指導の類型としては、次のものが挙げられる。

(イ) 全訓練生の集団活動を対象とするもの。訓練生会とか自治会とかの制度であ

る。

(ロ) 一単位の訓練生による集団活動を対象とするもの。訓練職種別に編成されるクラス活動である。教科を中心とする指導からもたされる欠陥を補い、指導員と訓練生又は訓練生間の人間関係を通して相互理解とそれを基礎とする集団活動を行なう組織である。

(ハ) 同じような興味、要求、能力、適性等によってまとまった小グループを対象とするもの、クラブ活動等である。クラブは特定の興味をもった者により組織されるグループであるが、すべての訓練生が、いずれかのグループに属してクラブ活動を行なうことが望ましい。

これらの諸活動は、ばらばらでなく、統一的に行なわれ、しかも職業訓練所の実情に即して実施されなければならない。

また、訓練所全体の理解と効果的な指導のもとに初めてその成果をおさめることが、期待される。

集団指導の効果としては、次のものが挙げられる。

(イ) 集団生活の基礎となる訓練が自然と行なわれ、民主的な社会の一員としての精神や態度が育成される。

(ロ) グループに属するという安定感をあたえ、社会的不適応者をなくする。すなわち、自分のもつ問題が自分だけのものでなく、他人も同じ悩みをもっていることがわかり、共通の問題を共に考え、共に解決する方法を学ぶことができる。

(ハ) 訓練生が相互に理解し合うことをたすけ、それに伴って自分をよりよく理解し、正しい自己認識、独立心等の伸長が期待される。

(ニ) 余暇の利用についてよい習慣をもつようになる。

9ノ3ノ2 個人指導

訓練生の個人的な生活上の問題を解決する指導である。

訓練生は、年齢、経歴、能力等において個人差が顕著であるから、その各々の内面的な要求を的確に把握して指導が行なわれる。訓練生の具体的な生活状況を把握し、理解し、その現実生活に立脚した指導を行なわねばならない。

一般に、個人指導のために用いる方法は、面接、相談、助言である。

訓練生の種々な問題について行なう面接においては、指導員は、訓練生がどんなことでも言い出せる暖いふんい気が大切である。

つぎに、訓練生の言うことを多くきいて、訓練生の問題を詳しく理解するよう努め、訓練生が、その問題について、自身の考えを述べたり、自身で解決できるよう、計画や方針を導き出してやる。このためには、過去の資料や背後の関係について知るとともに、面接、相談の結果を記録し、さらに進んで、訓練生を理解する必要がある。

個人指導について、その方法は、面接、相談、及び助言に限られるのでなく、訓練の中に多くの機会が存するのである。

生活指導の方法について、個人指導といい、集団指導といっても本質的な相違でなく、また、技能労働者の育成という見地よりみた場合訓練指導の方法とも本

質的な相違はない。ただ実践面からみた機能上の相違である。要は、本来の目的にてらし随時、随所に機動的な指導を行なって立派な技能労働者の育成を行なうことである。

訓練計画表 電機組立て工

区分	科目	年度 学期 月	1 年														
			前 期							後 期						前	
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
普通 学科	社 会			2H/W													
	体 育			1H/W													
	数 学			4H/W													
	物 理			2H/W													
	化 学			1H/W													
	工 業 英 語			2H/W													
	国 語			2H/W													
專 門 学 科	機械工学概論			2H/W													
	電気工学概論								2H/W								
	電 気 理 論			3H/W													
	電 力 応 用																
	電気機器及び器具															1H/W	
	測定及び試験			1H/W													
	工 作 法			2H/W													
	材 料			1H/W													
	材 料 力 学								1H/W								
	製 図			2H/W													
	法 規																
	学 科	合 計															
実 技	基本実技		← 共通基本 →							← 職種別巡回 →							
	応用実技		← 機 械 →	← 仕 上 →	← 計測・付がき →	← 火造り・溶接・板金 →	← 電気巻磁 分解・組立て →	← コイル巻き →	← 絶 縁 →	← 鉄 心 組 →	← コイ →						

2 年									3 年									時間 合計		
期			後 期						前 期						後 期					
8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		2	3
																				240
																				144
																				288
																				96
																				48
																				72
																				144
																				96
																				48
																				192
																				24
																				48
																				24
																				120
																				144
																				72
																				144
																				24
																				1972
																			(共通基本)	504
																			(巡回)	1392
																			(応用)	2664

ル入れ結線

回転機組立て

現場応用実技

〔例〕 訓練計画表 機械工

区分	科目	時間 週別	4			5				6				13	14	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11			12
普通 学 科	社会	40	人間と 社会生活 ① 1	民主的 ② 1	社会 1	人間形成 1	② 1	現在の社 会問題 ① 1	民主 1	政治 ② 1	① 1	② 1	③ 1	④ 1	⑤ 1	⑥ 1
	体育	40														
	数学	30	整数 ③ 2	2	④ 2	分数 2	④ 2	比例 ④ 2	2	③ 2	③ 2	③ 2	③ 2	③ 2	③ 2	③ 2
	物理	20	総説 2	④ 2	2	⑥ 2	2	2	⑤ 2	2	③ 2	② 2				
	実用英語	20	基礎文法 2	④ 2	2	⑥ 2	2	2	2	⑩ 2	2	2				
	経営大要	20	工場組織 1	② 1	1	② 1	1	② 1	1	③ 1	1	1	② 1	1	② 1	1
	計	170	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	6	6	6	6
専 門 学 科	機械工学大意	40				機械の要素					① 2	2	2	③ 2	2	2
	電気工学大意	10														
	機械工作法	120	旋盤機構 4	⑧ 4	④ 4	④ 4	④ 4	⑥ 4	② 4	⑥ 4	4	④ 4	⑧ 4	4	④ 4	4
	材料	30				鉄鋼	⑤ 2	2	2	⑩ 2	2	2	⑧ 2	2	2	⑤ 2
	材料力学	10														
	製図	70	③ 3	③ 3	③ 3	⑦ 3	③ 3	③ 3	③ 3	⑦ 3	③ 3	③ 3	③ 3	③ 3	② 3	③ 3
計	280	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	
基本 実習	計測及びけがき作業	30	計測 (週5時間) ⑩		けがき (週5時間) ⑩											
	仕上基本作業	48	センター盤 (週5時間) ⑮		やすりかけ (週5時間) ⑮		はつり みぞほり (週5時間) ⑦		切削 (週5時間) ③		ねじ立て ねじ切り (週5時間) ④		その他 問題演習 (週5時間) ④			
応用 実習	刃物研ま作業	6			刃物研ま (週5時間) ⑥											
	各種工作機械 基本作業	516	旋盤操作練習 (週3時間) ⑩				センター作業(チェック心出し) (週3時間) ⑩				(心出しと心もみ) (丸棒削り) (段付け)					
計	600									ボール盤 (週2時間) ⑫						
計	750															
計		1,800														

7			8			9			10			11							
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	
条件	雇用と失業			社会保障		労働組合			労働関係			国際的労働問題	経済生活と社会			生産と企業			
② 1	1	③ 1	1	1	② 1	1	③ 1	1	1	③ 1	1	① 1	1	③ 1	1	1	③ 1	1	
2	2	2	2	2	2														
函数																			
④ 2																			
産業安全				職場規律															
1	⑤ 1	1	1	1	② 1														
6	4	4	4	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
動力関係機械					考查														
2	2	2	① 2	2	① 2														
										電気磁気		電気機器		考查					
										2	⑤ 2	2	④ 2	① 2					
考查中間	鑄造		鑄造		テーパー削り	溶接	板金	各種旋盤	形削り盤	フライス盤	フライス盤	研削盤	歯削り盤	積層板	考查				
② 4	⑥ 4	4	⑧ 4	4	④ 4	④ 4	④ 4	④ 4	⑧ 4	4	④ 4	④ 4	④ 4	④ 4	④ 4	④ 4	④ 4	④ 2 4	
料	応力と歪					はり柱			軸	考查									
① 2	1	1	④ 1	1	1	1	③ 1	1	1	② 1	① 1								
写図			考查																
3	3	② 3	3	3	3	3	3	3	② 1										
11	9	10	10	10	10	8	8	10	8	7	7	6	4	4	4				
穴あけ 穴ぐり 突切り (週10時間) ⑤			やといやび マンドレル			曲面及び球			面削り			ターレット旋盤 フライス盤 形削盤作業 (週15時間) ⑥							
はめ合せ及びつば合せ (週5時間) ⑤					テーパー削り ⑤			ねじ切り (週20時間) ⑥											
												製作品部品 (週20時間) ⑤							
												製作品機械加工 ⑤							

〔例〕 職業分析表（機械工—基本実技—）

代表的仕事 要素作業	段付き丸棒	円板	ローレット棒	テーパ棒	段付きねじ棒	段付き円筒	ハンドル柄	ジャッキ
寸法を測る	○	○	○	○	○	○	○	○
パスで測る	○	○	○	○	○	○	○	○
マイクロメータで測る			○	○	○	○	○	○
バイトを研ぐ	○	○	○	○	○	○	○	○
旋盤を始動・運転・停止する	○	○	○	○	○	○	○	○
取り付ける	○	○	○	○	○	○	○	○
センタ穴をあける	○		○	○	○		○	○
振れをみる	○	○	○	○	○	○	○	○
荒削りする	○	○	○	○	○	○	○	○
仕上げ削りする	○	○	○	○	○	○	○	○
突切る	○		○	○	○		○	○
端面仕上げをする	○	○	○	○	○	○		○
テーパ削りをする				○				○
ねじ切りをする					○			○
中ぐり・穴あけする						○		○
曲面仕上げをする							○	
ローレットをかける			○					
ドリルで穴あけする						○		○
面取りをする							○	○
ふれ止めをかける								○
溝入れをする					○			○
代表的仕事の實習 時期、時間(H)	6月 (15H)	6月 (8H)	7月 (15H)	8月 (20H)	9月 (20H)	9月 (15H)	9月 (8H)	10月 (45H)

〔注〕 代表的仕事は、基本実技訓練課題の主なものを例示的に挙げたものである。

附 表

建築大工〔学科〕指導案

1	題 目	柱
2	目 標	柱の知識を習得させ、建築物において柱のはたす機能を理解させる。
3	時 期	第7週（昭和 年5月22日）
4	訓練生数	10人
5	場 所	教室
6	所要時間	1時間
7	教 材	教科書 建築木構造 教 材 材種（杉、松その他）及び柱模型

指導段階	要 点 と 方 法	時 間
準 備	柱材及び模型を示し、柱について、どの程度知識があるか 確める	5分
提 示	1 柱の種類…種類と名称を教える（教材提示） 2 柱の材種…使用材種と何故その材が選ばれるか（教材 提示） 3 柱の役目…荷重と横圧について 4 柱の耐久…防虫、防腐、防湿 5 柱と他の材の関連について	30分
適 用	1 柱が真すぐなのは…曲がっていると、利用上、結果上 2 柱の大きさの決定…建築法上	10分
確 認	柱の種類、柱のうける荷重が均等であることの理由を質問 する。	5分

建築大工〔基本実技〕指導案

1	題 目	ほぞ造り
2	目 的	鋸の使い方、ほぞの挽き方を習得させる
3	時 期	第8週（昭和 年5月29日）
4	訓練生数	10人
5	場 所	実習場
6	所要時間	3時間
7	教 材	作業指導票 No. 21 材 料 角材 工 具 両刃鋸、墨掛け工具、口切のみ、玄能

指導段階	要 点 と 方 法	時 間
準 備	1 ほぞの役目について話す。 2 墨掛け、及び両刃鋸の使い方について要点を復習する。	10分
提 示	1 工作するほぞの寸法について図示説明する。 2 作業分解シートにより実演する。	30分
実 習	1 作業配置につかせる 2 ほぞ造りを行わせる。 3 反覆練習する。	1 時間
確 認	1 墨掛け、鋸の使い方も確める。 2 ほぞの寸法を確かめる 3 製品について比較し、討議する。	15分

作業分解

作 業 ほぞ造り
 部 品 角材 訓練生1人当り1本
 道 具 両刃鋸 墨掛け工具 口切のみ 玄能

主 なる ス テ ッ プ	急 所
1 ほぞをひく	たてびきで 墨は半分残す
2 胴付きをひく	横びきで
3 幅をよせる	柄をたてて 横びきで
4 面をとる	3ミリメートル